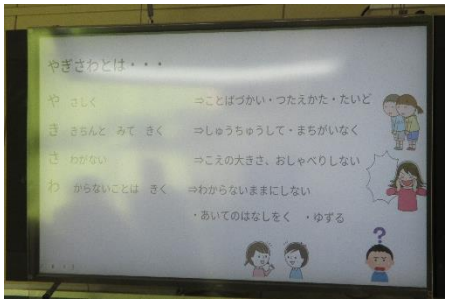
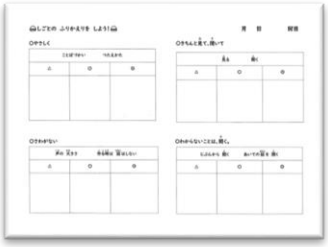
<table>
<tr><td>1・2年</td><td>自立活動</td><td>「やぎさわハンバーガーショップを開こう」
4時間</td><td>概要</td><td>振り返り、個別の指導内容(個別指導計画と普段の見取りから)</td><td>適　○</td></tr>
<tr><td>手立て</td><td colspan="2">・メニュー、調理手順、レジの台本を用意することで、視覚的にやるべきことや順序を知ることを分かるようにする。

・レジと調理場など、配置場所を決め、どこでないをするかを示すことで、よりお店屋さんの活動であることを体感できるようにする。
・誰が、どの役割をするかを掲示することで、すぐ活動に移れるようにする。
・注文表を用意し、注文のメモを取りやすくする。
・作った商品に、商品名を貼り、レジの人の商品確認をしやすくする。

・人や場面に応じた適切な言葉遣いが、日常的に課題であるため、「ふわふわ言葉」と、「ちくちく言葉」は自立活動でも再度学習しておく。
・単元の目標を意識し、達成したかを振り返るために、「やぎさわ」の頭文字をとった4つの約束を設定する。
 

・毎時ワークシートで自己評価をさせたいが、自分を客観的に見ることが難しいことから、友達にも評価してもらうことで、自分がどこまで目標を達成できたかを振り返らせる。なお、児童の評価は、「やさしく」「き</td><td>児童の様子</td><td>・視覚的にわかりやすくすることで、特に困ることなく動けていた。

・自分の仕事に集中しできたり、流れが分かりやすくなったりした。
・優しい言葉遣いなど、具体的に示すことで、混乱したりこだわったりすることがなかった。
・分かりやすい、短い言葉で示すことで、どこを意識するかが理解できた。
・ワークシートは毎時間自己評価と他者評価を繰り返すことで、何ができて、課題は何かを振り返ることができた。</td></tr>
</table>

	ちんと見る・聞く」「さわがない」「わからないことは聞く」のそれぞれの中から、教員が毎時児童の課題に合ったものを選択し丸を付けてから配布する。 ・「やぎさわ」は、学習以外でも意識させるように、ポイントカードを作り、やぎさわができた時にポイントを付ける。 ・この学習後、「何ができるようになったか」を、写真に撮り、児童に見せることで、普段のどんな場面で、「やぎさわ」を意識するかが結びつくようにした。 		 ・実際にできていることが分かることで、どのような行いが「やぎさわ」なのかが理解でき、意欲につながった。
成果	・自分の課題と身に付けたい力に気付くことができた。 ・楽しみながら課題に取り組むことができた。	課題	・振り返りの時間をどのくらいとるか。 ・回数を重ねて、長期的に学習しないと、成果は見えにくい。